

認知症とともに生きている御本人からいただいたメッセージを受けて  
これからやるべきことがはっきりしました

認知症在宅生活サポート室保健師 永野富美子

今回、樋口さんと藤田さんのお話を拝聴する機会を得て、自分の未熟さを痛感するとともに、これからやるべきことがはっきりしました。

ご本人が語る 認知症と向き合ってきたこと。やはり凄いですね。説得力というか、ある種の感動を覚えました。

有難い貴重な時間でした。ありがとうございました。

認知症施策担当部署にいて私は何をしていたのか、振り返ると本当に恥ずかしい。『木を見て森を見ず』という言葉がありますが、木どころか枝とか葉とかしか見ていなかったのではないかと反省しきりです。

新オレンジプランに『認知症の人やその家族の視点の重視』とあるのはわかっていたけれども、あまりに未熟すぎて『重視する』ことなど全くできていませんでした。

認知症の人やその家族に、会ってもいなかったですから。

事業を実施することももちろん大事ですが、目的を見失っている状態では、本当に良いものはできていなかったんだと思います。

思うだけでも、もう、胸が苦しくなります。

できることなら、当時の私に言いたい！

「その事業は何のためにやるの？本人や家族の声を聞いていらっしやい！」と。

こうやって過去を反省したからといって、立派なことができるか自信はないですけど、助けてくれる人がたくさん見つかった今、助けを借りてやってみようと思います。

まずは、今度の金曜に区の担当者と打ち合わせ会があるので、そこで来年度事業について1つ提案をしてみたいと思います。

今年は静岡で開催されたという「認知症の本人が語り合う全国の集い」を世田谷区で開催できないか、企画書をお示ししてみたいと思います。既に来年度事業については予算編成を終えて財政部局の査定段階かもしれませんが、ダメ元で。

区では来年度、当事者ミーティング（3名くらいを集めて）を開催しようと考えている様子なのですが、まずは、日本認知症本人ワーキンググループの方々の力を借りて大々的に「本人が発信する」ことの威力を発揮してもらい、ポジティブキャンペーンをやって、区内の本人たちが自分たちも発信しようと思ってもらえるような雰囲気を作って、「発信できる環境づくり」をできたらと思っています。